

### 健苗育成で活着・初期生育の確保を!!

#### 1 出芽・育苗期間の管理 (中苗)

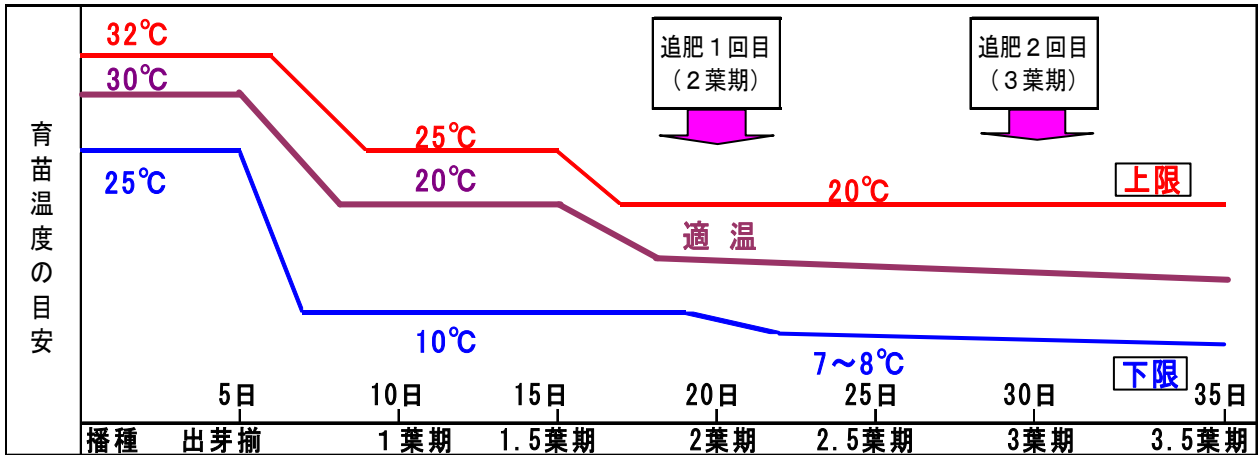


図 育苗温度の目安 (中苗)

##### ①温度の管理

- ・ 4月19日に仙台区気象台から発表された1か月予報では、向こう1か月の平均気温は高く、日照時間はほぼ平年並の予想となっています。4/21~5/4の平均気温は高く推移する見込みであるため、温度管理には十分に注意してください。
- ・ 出芽長は0.5cmを目標とします。出芽長を伸ばしすぎると出葉が遅れやすくなるので注意が必要です。
- ・ 細菌病等の助長を防ぐため、出芽までの温度は32°Cを超えないようにし、出芽後の再被覆は行わないでください。
- ・ 通気管理は1葉期頃から実施してください。2葉期頃までは、最高気温25°C以下、最低気温5°C以上を保ちます。2.5葉期を過ぎたら、特に寒い日でない限りハウスを開放し徐々に外気温に慣らしてください。

##### ②水の管理

- ・ かん水は早朝を基本とし、遅くとも午前中に行ってください。かん水は十分量行い、回数はできるだけ少なくしてください。

##### ③育苗期の追肥

- ・ 苗の窒素濃度は移植後の活着力に影響を与えます。本葉2葉期と3葉期にそれぞれ、窒素成分で箱あたり1gを施用します。
- ・ 追肥後は散水して葉身に付着した肥料を洗い流し、肥料焼けを防ぎます。

	1箱あたり	100箱あたり
かん水量	500cc	50リットル
肥料		
硫安	5g	500g
液肥2号	10cc	1リットル

※育苗ロング肥料を使用した場合は、追肥は不要です。

## 2 苗立枯病の防除対策

- ・ 向こう1ヶ月の気温は高く、日照時間は平年並と予想されていることから、高温性の病害（リゾープス菌・細菌病等）に注意し、栽培基準に基づいた適切な管理に努めてください。
- ・ 耕種的防除対策として、清潔な資材を使用するなど、育苗施設の衛生を保ちます。
- ・ 床土混和や播種時に防除薬剤を使用しなかった場合は、発芽後（発病前）にタチガレエースM液剤、または発芽後～緑化期にランマンフロアブルをかん注します。
- ・ 苗立枯病は数種あり、種類によって防除薬剤が異なるため注意してください。

## 3 育苗期いもち病対策

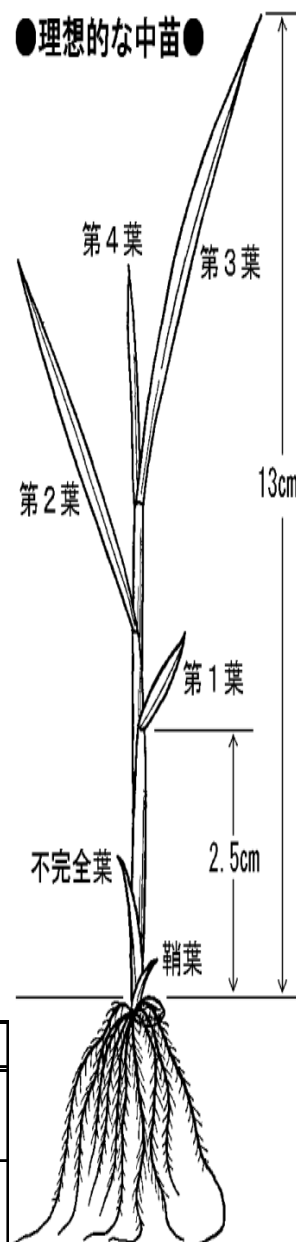
いもち病の発生は、育苗施設からの発病・感染苗の本田への持ち込みが主な要因です。

- ・ 育苗施設内および近隣の稲わら・籾殻を撤去し、育苗期防除と適切な葉いもち防除を確実に行うことで、いもち病の被害を未然に防ぐことができます。
- ・ 嵐剤等のQ・I剤（ストロビルリン系剤）は、耐性菌が確認されているため、使用しません。

### 【育苗期いもち防除】 次のいずれかで防除を行う

薬剤名	処理時期	希釈倍数・散布量
ベンレート水和剤※	播種時～播種7日後頃 (かん注)	500倍 500ml/箱
		1,000倍 1,000ml/箱
ビームゾル	緑化始期 (かん注)	500倍 500ml/箱

※ベンレート水和剤の播種時処理は、生物農薬（タフブロックやエコホープDJ）の防除効果を低下させるため、体系処理は行わない。



### 【 水稲育苗施設内での注意事項 】

○水稲育苗終了後のハウスに作付けされた野菜類・花き類において、残留農薬基準値を超過する、あるいは生育障害が起こるなどの事例が発生しています。水稲育苗後に野菜類・花き類を作付けする場合は、以下の対策を実施してください。

- ①水稲育苗箱の下に不透水性無孔シートを敷き、育苗期に使用した農薬が土壤に浸透しないようにしてください。
- ②移植当日に箱施用剤を用いる場合は、育苗施設外で散布処理します。
- ③育苗終了後の無孔シート撤去時は、シート上の水や土壤などを育苗ハウス内にこぼさないように作業してください。

不明な点がある場合は、山本地域振興局農林部農業振興普及課 (Tel.52-1241) までご連絡ください。